

1 姿勢保持

Q.1 「姿勢」が重要だと言われます。どうして「姿勢」が重要なのですか？

A.1 私たちは日常生活のさまざまな場面（休息・勉強・食事・排泄・入浴など）で、その目的に応じた姿勢をとっています。自分の力でその姿勢を支えることができない場合、生活に支障をきたすことが考えられます。また、わかりやすい例として、身体が傾いていたり、ずり落ちそうになっていると、「身体の変形を助長したり」、「呼吸や食事がスムーズに行えなかったり」、「介助者への負担が増えること」や「安全性」などの問題が生じやすくなります。

医師や理学療法士などの専門職と相談して、障害の状況に合わせて、目的とする姿勢を作り出すための福祉機器を活用し、積極的な生活をおくれるように工夫いたしましょう。

Q.2 子どもは何とか立つことができます。日常使う「姿勢保持」に適した機器はありますか？

A.2 理学療法士などの専門職の評価を受けることが必要です。立位の姿勢ができる時間や歩行能力との関係にもよりますが、立位保持具の検討や学校内の設備・構造など使用条件を考慮したうえで、サドル付の歩行器なども考慮できるかもしれません。

Q.3 「座位保持車いす」を選ぶ時のポイントはどのようなことですか？

A.3 状態や環境により異なってくるので、詳細な解説は難しくなります。何よりも医師や理学療法士などの車いすを処方する専門職に相談して決めましょう。基本は、使用者の身体寸法、駆動能力・座位保持能力や身体の変形、緊張はどうかなどの身体状況に合わせて、身体支持部（座席や背もたれなどの構造）を検討します。

特に子どもの場合は、成長や障害状況の変化に対応できるモジュラー型の車いすが有効です。また、自走できるなら駆動方法やポジションについて検討しましょう。自走が難しいようであれば、介助用の車いすを考慮します。その際クライニング式やティルト式機構が必要でしょう。また、電動車いすの操作ができる可能性があれば導入の使用環境について確認し、効果などを検討して決定します。同時に使用環境や何を主目的に使用するかによって、全体的なフレーム構造や細部の部品について選択するものが変わります。最近ではデモ機を用意しているところが増えましたので、決定する前に試乗し、要望を伝えて事前の調整を行うことが有効な方法です。

2 家庭

Q.1 「食事」の際、子どもがデパートやスーパーで市販されているスプーンやフォークを持ってません。手を自由に動かせない子どもが使える食器はどのようなものがあり、どこで探せばよいのでしょうか？

A.1 作業療法士などの食事動作を指導してくれる専門職に相談することが大切です。手指に障害があっても握り部分に、握りやすく装着しやすい工夫が施されたスプーン・フォークや、縁に返しがあって、すくいやすい形状のお皿なども市販されています。例えばコップで「持ち手が大きいもの」、「吸い口が飲みやすい形状」、「ストロー付きのもの」など、いろいろと工夫されたものが一般製品の中にも見受けられるようになりました。福祉ショップだけでなく最近では大手デパートにも福祉コーナーを設けているところが増えましたので、購入の前に相談してみましょう。

Q.2 浴槽が狭く子どもと2人で「入浴」することが困難です。「入浴」を助ける機器はありますか？

A.2 入浴動作についても理学療法士などの専門職に相談することは大切です。洗い場に置いて利用できるコンパクトな入浴用チェアも色々なものが手に入るようになりました。また、コンパクトな構造の入浴用リフトと吊り具の組み合わせが有効な場合もあります。

Q.3 家庭のトイレは子どもには大きすぎます。子どもの「排泄」はどのような機器を使えばよいのでしょうか？

A.3 排泄動作も専門職の評価を基に検討しましょう。出来るだけ家庭のトイレを利用できるように工夫したいところですが、排泄の自立を促す上で、低年齢の子どもにはポータブル式のトイレチェアを使用することもできます。また、家庭用の便座の上に姿勢保持の工夫がされている便座クッションを乗せるだけで安定して利用できることもあります。さらに姿勢の安定しない子どもには、肘あてと背もたれの付いたトイレガードなどをトイレ内に設置しテーブルを取り付けて胸部パッドなどで身体を支える工夫もできるかもしれません。便器にかぶせるようにセットできるキャスター付きのトイレチェア（リクライニング機構付きもある）なども成人に近くなると有効です。

Q.4 学齢前の子どもがいます。遊びながら学べる教材はありますか？

A.4 学校の先生と相談して、学習能力に応じて考える必要があると思います。例として、自宅でパソコンをお持ちの方も増えていますので、楽しみながら学べるゲーム集をキッズ学習ソフトのように試してみるのも良いかもしれません。

3 学校

Q.1 学校内で使う「車いす」を選ぶ時のポイントはどのようなことですか？(手動と電動など)

A.1 前述の「座位保持車いすを選ぶポイント」に加えて、学校の場合は、設備や構造などの環境と主にケアする先生の意向などと調整することが重要になってきます。特に勉強に使用する机はどのようなものか。例えば、車いすに付属のテーブルを使用するのか。また、移動にスクールバスを使用する場合、車いすの固定方法の確認や頭部まで支える構造が必要になるかなど、安全性について注意する必要があります。移乗に関連して自力か介助かにより、その移乗方法に合わせた車いす設定が必要でしょう。その他学校方針などに関連する要素があれば留意する必要があります。

Q.2 来年子どもを普通学校へ通わそうと考えていますが、文字を書くことが困難です。それを支援する機器はありますか？

A.2 まず、作業療法士(OT)などの書字に関わる動作について指導してくれる専門職に相談することを勧めます。手指の状態によって判断が変わると思いますが、ペンを装着し、手にはめることが出来る自助具などが検討できます。また、ノート型パソコンを持ち込むことが許可されるなら、自助具でキーボードを操作する方法も有効かもしれません。

Q.3 子どもに視覚障害があり授業で教科書を読むことが困難です。そのため勉強に対する意欲が湧かないようなのですが、なにかよい機器はありますか？

A.3 まずは視覚障害の専門機関との連携が必要だと思います。視覚障害の程度によると思いますが、簡単な拡大鏡の利用や、高額にはなりますが7倍まで拡大できる携帯型のカラー液晶拡大読書器なども検討できるかもしれません。

4 相談機関の種類

Q.1 子どもの福祉機器についての相談機関はどのような所がありますか？

A.1 各地域にある療育センター、保健福祉事務所、児童相談所などで可能な範囲で相談に応じてくれるでしょう。

最近では各地で子ども向けの福祉機器・遊具に焦点を当てた展示会・イベント(キッズフェスタ・キッズフェアなど)が開催されていますので、インターネットなどで情報を得て参加されることをお勧めします。